

# 別冊

## ふ化放流計画書

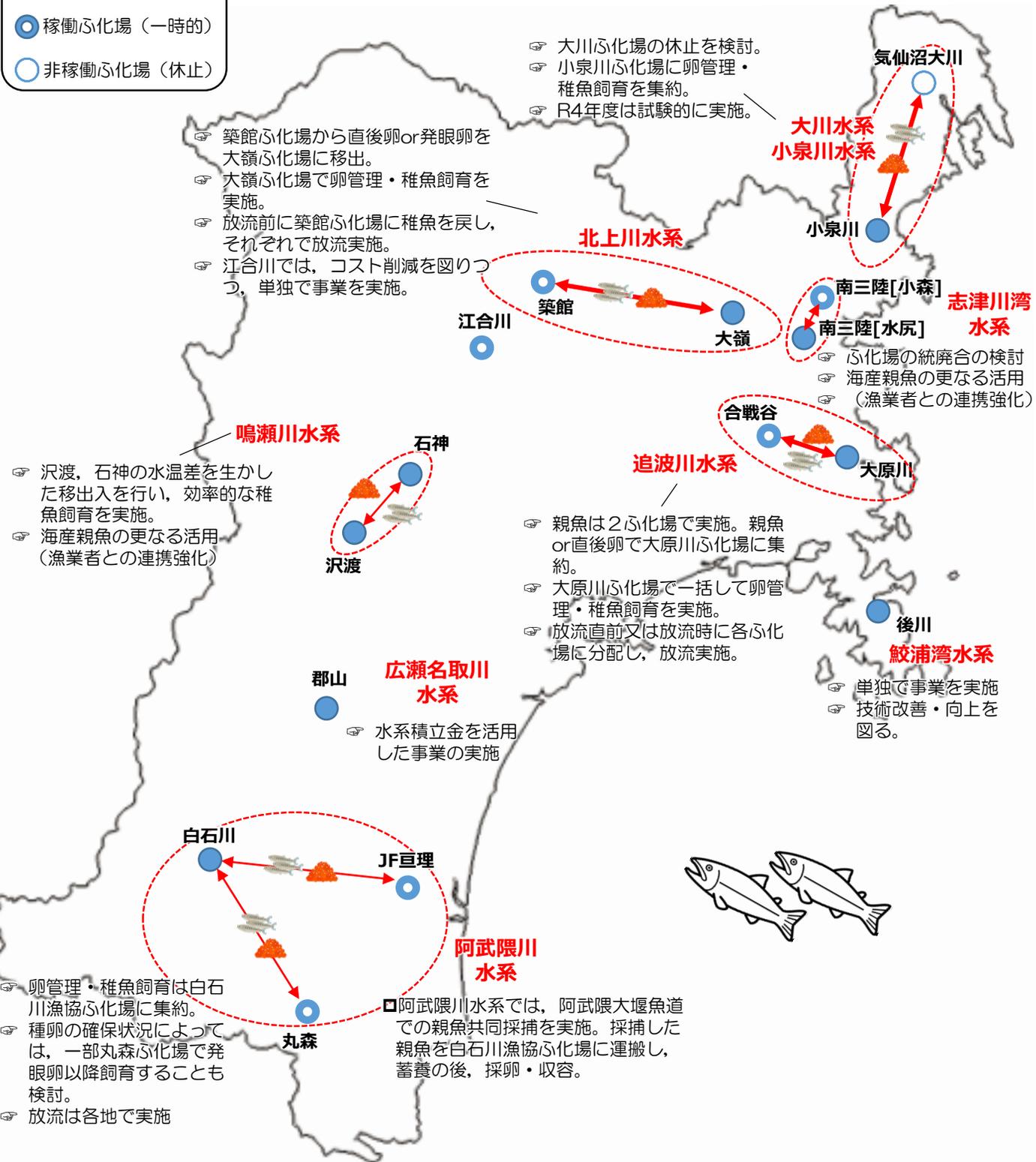
—令和4年度—

- (1) 気仙沼大川さけ人工ふ化場
- (2) 小泉川さけふ化場
- (3) 南三陸町ふ化場 (小森・水尻)
- (4) 北上川大嶺ふ化場
- (5) 栗原市築館さけ・ますふ化場
- (6) 江合川漁協さけふ化場
- (7) 北上追波漁協合戦谷ふ化場
- (8) 大原川さけ人工ふ化場
- (9) 後川さけ人工ふ化場
- (10) 石神さけふ化場
- (11) 沢渡ふ化場
- (12) 郡山ふ化場
- (13) 白石川漁協さけふ化場
- (14) 宮城県漁協亘理支所さけふ化場
- (15) 丸森さけふ化場

## I 宮城県のさけふ化放流体制概念図

- 稼働ふ化場
- 稼働ふ化場（一時的）
- 非稼働ふ化場（休止）

□北部管内3ふ化放流団体では、親魚の来遊状況によっては、神山川での親魚の共同採捕を実施。



### 【県外産種卵の移入について】

他道県との連携のもと、県外産種卵の移入を図り、種卵の確保に努める。

# 北部管内

## 【北部管内】

- (1) 気仙沼大川さけ人工水質場
- (2) 小泉川水質場
- (3) 南三陸町水質場（小森・水尻）



(3) 採卵の方法

	自河川分	共同採捕分	その他 ( )
採卵場所	大川		
採卵期間	10月上旬 ~ 1月上旬	月 旬 ~ 月 旬	月 旬 ~ 月 旬
採卵数量	2,550千粒	千粒	千粒

(4) 種卵の管理

	自河川分	連携・集約分	その他 (県外からの移入分)
管理場所	気仙沼大川さけ人工ふ化場		
管理期間	10月上旬 ~ 3月上旬	月 旬 ~ 月 旬	月 旬 ~ 月 旬
管理数量	2,550千粒	千粒	千粒

(5) 稚魚の飼育

	自河川	連携・集約分	その他 (県外からの移入分)
飼育場所	気仙沼大川さけ人工ふ化場		
飼育期間	1月上旬 ~ 3月下旬	月 旬 ~ 月 旬	月 旬 ~ 月 旬
飼育数量	2,000千尾	千尾	千尾

(6) 親魚・直後卵・発眼卵・稚魚の移出もしくは移入

	区分	数量	時期	団体名等	備考
移出	親魚	尾	月 旬 ~ 月 旬		♂ 尾, ♀ 尾
	直後卵	粒	月 旬 ~ 月 旬		
	発眼卵	粒	月 旬 ~ 月 旬		
	稚魚	尾	月 旬 ~ 月 旬		体重 g 程度
移入	親魚	尾	月 旬 ~ 月 旬		♂ 尾, ♀ 尾
	直後卵	粒	月 旬 ~ 月 旬		
	発眼卵	粒	月 旬 ~ 月 旬		
	稚魚	尾	月 旬 ~ 月 旬		体重 g 程度

(7) 採卵数及び放流尾数

採卵数合計	放流尾数合計 (自河川分)
2,550千粒	2,000千尾

5 その他特記事項

他道県との連携のもと、県外産種卵の移入を図り、種卵の確保に努める。  
その移入状況により、収容卵数や放流尾数は変更となる。

### 1 ふ化放流団体・ふ化場について

ふ化放流団体名	小泉川鮭増殖組合	代表者名	組合長 中館 忠一
ふ化場名	小泉川さけふ化場	所在地	気仙沼市本吉町新圃の沢

### 2 基礎情報

取水量	8トン/分	水源	井戸・伏流水・河川水等
種卵収容可能数量	7,600千粒	稚魚飼育可能数量	6,600千尾
親魚畜養池	有・無	親魚畜養池収容可能量	尾
飼育期間（採卵～最終放流まで）	10月下旬～3月下旬		
飼育水温の状況（採卵～最終放流まで）	最低 8℃～最高 15℃		

### 3 生産体制

#### ①採捕・採卵，管理・生産

・親魚の採捕，採卵は，これまでどおり津谷川（小泉川）で実施する。10月下旬～12月下旬に採捕・採卵後，小泉川さけふ化場に種卵を収容し，放流まで飼育・管理を行い，津谷川に放流する。

#### ②種卵確保の取組み

・津谷川への親魚遡上は近年，非常に低調であり自河川での種卵確保には限界があるため県外からの移入卵も可能な限り活用し種卵確保に努める。  
 ・県外からの移入卵は小泉川さけふ化場に収容し，放流まで飼育・管理を行い，津谷川に放流する。

#### ③他水系ふ化場との機能連携

・他水系ふ化場が適期内放流や飼育期間短縮のため当ふ化場の活用を検討している場合，施設及び技術面で可能な限り協力しふ化場間の連携に努める。

### 4 生産計画

#### (1) 親魚の採捕

	自河川分	共同採捕分	その他（ ）
採捕場所	津谷川	<del>津谷川</del>	<del>津谷川</del>
採捕期間	10月下旬～12月下旬	<del>月 旬～月 旬</del>	<del>月 旬～月 旬</del>
採捕数量	♂ 200尾 ♀ 400尾	<del>♂ 尾 ♀ 尾</del>	<del>♂ 尾 ♀ 尾</del>

#### (2) 畜養の方法

	自河川分	共同採捕分	その他（ ）
畜養場所	<del>津谷川</del>	<del>津谷川</del>	<del>津谷川</del>
畜養期間	<del>月 旬～月 旬</del>	<del>月 旬～月 旬</del>	<del>月 旬～月 旬</del>
採捕数量	<del>♂ 尾 ♀ 尾</del>	<del>♂ 尾 ♀ 尾</del>	<del>♂ 尾 ♀ 尾</del>

(3) 採卵の方法

	自河川分	共同採捕分	その他 ( )
採卵場所	津谷川		
採卵期間	10月下旬 ~ 12月下旬	月 旬 ~ 月 旬	月 旬 ~ 月 旬
採卵数量	800千粒	千粒	千粒

(4) 種卵の管理

	自河川分	連携・集約分	その他 (県外からの移入分)
管理場所	小泉川さけふ化場		
管理期間	10月下旬 ~ 3月上旬	月 旬 ~ 月 旬	月 旬 ~ 月 旬
管理数量	800千粒	千粒	千粒

(5) 稚魚の飼育

	自河川	連携・集約分	その他 (県外からの移入分)
飼育場所	小泉川さけふ化場		
飼育期間	1月下旬 ~ 3月下旬	月 旬 ~ 月 旬	月 旬 ~ 月 旬
飼育数量	640千尾	千尾	千粒

(6) 親魚・直後卵・発眼卵・稚魚の移出もしくは移入

	区分	数量	時期	団体名等	備考
移出	親魚	尾	月 旬 ~ 月 旬		♂ 尾, ♀ 尾
	直後卵	粒	月 旬 ~ 月 旬		
	発眼卵	粒	月 旬 ~ 月 旬		
	稚魚	尾	月 旬 ~ 月 旬		体重 g 程度
移入	親魚	尾	月 旬 ~ 月 旬		♂ 尾, ♀ 尾
	直後卵	粒	月 旬 ~ 月 旬		
	発眼卵	粒	月 旬 ~ 月 旬		
	稚魚	尾	月 旬 ~ 月 旬		体重 g 程度

(7) 採卵数及び放流尾数

採卵数合計	放流尾数合計 (自河川分)
800千粒	640千尾

5 その他特記事項

他道県との連携のもと、県外産種卵の移入を図り、種卵の確保に努める。  
その移入状況により、収容卵数や放流尾数は変更となる。

## 別冊 ふ化放流計画

## 1 ふ化放流団体・ふ化場について

ふ化放流団体名	南三陸町	代表者名	町長 佐藤 仁
ふ化場名	小森ふ化場・水尻ふ化場	所在地	南三陸町志津川字熊田・字竹川原

## 2 基礎情報

## (1) 小森ふ化場

取水量	2.5トン/分	水源	井戸・ <u>伏流水</u> ・河川水等
種卵収容可能数量	16,000千粒	稚魚飼育可能数量	5,000千尾
親魚畜養池	有・ <u>無</u>	親魚畜養池収容可能量	尾
飼育期間（採卵～最終放流まで）	10月下旬 ～ 3月下旬		
飼育水温の状況（採卵～最終放流まで）	最低 7℃ ～ 最高 15℃		

## (2) 水尻ふ化場

取水量	5トン/分	水源	<u>井戸</u> 伏流水・河川水等
種卵収容可能数量	0千粒	稚魚飼育可能数量	5,000千尾
親魚畜養池	有・ <u>無</u>	親魚畜養池収容可能量	尾
飼育期間（採卵～最終放流まで）	11月下旬 ～ 3月下旬		
飼育水温の状況（採卵～最終放流まで）	最低 10℃ ～ 最高 15℃		

## 3 生産体制

## ①採捕・採卵、管理・生産

・親魚の採捕、採卵は八幡川及び水尻川で実施する。種卵は小森ふ化場に収容し、稚魚の飼育・管理は小森ふ化場と水尻ふ化場の2か所で行う。稚魚は八幡川に放流する。

## ②種卵確保の取組み

・漁港に近いことから、海面で漁獲されたサケを水尻ふ化場の飼育池で畜養し種卵確保に努める。

・県外からの移入卵を収容し、放流まで管理・飼育を行う。

## ③他ふ化場との機能連携

・水尻ふ化場の井戸水温は冬季でも比較的高いため、卵や稚魚の成長は早い。要望があれば他ふ化場の種卵管理や飼育日数の短縮に協力することができる。

## 4 生産計画

## (1) 親魚の採捕

	自河川分	共同採捕分	その他（海産親魚）
採捕場所	八幡川・水尻川	<del>志津川湾</del>	志津川湾
採捕期間	10月下旬 ～ 12月中旬	<del>11月上旬 ～ 12月中旬</del>	11月上旬 ～ 12月中旬
採捕数量	♂ 102尾 ♀ 200尾	<del>♂ 尾 ♀ 尾</del>	♂ 尾 ♀ 300尾

## (2) 畜養の方法

	自河川分	共同採捕分	その他（海産親魚）
畜養場所	<del>水尻ふ化場</del>	<del>水尻ふ化場</del>	水尻ふ化場
畜養期間	<del>11月上旬 ～ 12月中旬</del>	<del>11月上旬 ～ 12月中旬</del>	11月上旬 ～ 12月中旬
採捕数量	<del>♂ 尾 ♀ 尾</del>	<del>♂ 尾 ♀ 尾</del>	♂ 尾 ♀ 50尾

(3) 採卵の方法

	自河川分	共同採捕分	その他(海産親魚※畜養)	その他(海産親魚)
採卵場所	八幡川・水尻川		小森ふ化場	志津川仮設魚市場
採卵期間	10月下旬～12月中旬	月 旬～月 旬	11月上旬～12月中旬	11月上旬～12月中旬
採卵数量	400千粒	千粒	100千粒	500千粒

(4) 種卵の管理

	自河川分	連携・集約分	その他(海産親魚)	その他( )
管理場所	小森ふ化場		小森ふ化場	
管理期間	10月下旬～2月上旬	月 旬～月 旬	10月下旬～2月中旬	月 旬～月 旬
管理数量	400千粒	千粒	600千粒	千粒

(5) 稚魚の飼育

	自河川	連携・集約分	その他(海産親魚)	その他( )
飼育場所	小森・水尻ふ化場		小森・水尻ふ化場	
飼育期間	1月上旬～3月下旬	月 旬～月 旬	1月上旬～3月下旬	月 旬～月 旬
飼育数量	320千尾	千尾	480千尾	千粒

(6) 親魚・直後卵・発眼卵・稚魚の移出もしくは移入

	区分	数量	時期	団体名等	備考
移出	親魚	尾	月 旬～月 旬		♂ 尾, ♀ 尾
	直後卵	粒	月 旬～月 旬		
	発眼卵	粒	月 旬～月 旬		
	稚魚	尾	月 旬～月 旬		体重 g 程度
移入	親魚	尾	月 旬～月 旬		♂ 尾, ♀ 尾
	直後卵	粒	月 旬～月 旬		
	発眼卵	粒	月 旬～月 旬		
	稚魚	尾	月 旬～月 旬		体重 g 程度

(7) 採卵数及び放流尾数

採卵数合計	放流尾数合計(自河川分)
1,000千粒	800千尾

5 その他特記事項

他道県との連携のもと、県外産種卵の移入を図り、種卵の確保に努める。  
その移入状況により、収容卵数や放流尾数は変更となる。

# 中部管内

## 【中部管内】

- (4) 北上川大嶺ふ化場
- (5) 栗原市築館さけ・ますふ化場
- (6) 江合川漁協さけふ化場
- (7) 北上追波漁協合戦谷ふ化場
- (8) 大原川さけ人工ふ化場
- (9) 後川さけ人工ふ化場

## 1 ふ化放流団体・ふ化場について

ふ化放流団体名	北上川漁業協同組合	代表者名	代表理事組合長 佐々木 武雄
ふ化場名	北上川大嶺さけふ化場	所在地	登米市東和町

## 2 基礎情報

取水量	12トン/分	水源	井戸
種卵収容可能数量	6,200千粒	稚魚飼育可能数量	6,500千尾
親魚畜養池	①・無	親魚畜養池収容可能量	1,200尾
飼育期間（採卵～最終放流まで）	9月下旬～3月中旬		
飼育水温の状況（採卵～最終放流まで）	最低10℃～最高13℃		

## 3 生産体制

## ①採捕・採卵、管理・生産

・親魚の採捕・採卵は、北上川水系大関川、二股川、南沢川及び旧北上川で実施する。9月下旬から11月下旬に採捕し、直後卵を北上川漁協大嶺さけふ化場に収容する。収容後は、大嶺さけふ化場において、放流まで管理・飼育を継続し、北上川（脇谷付近）に放流する。

## ②種卵確保の取り組み

・自河川における親魚採捕を継続して実施する。

## ③水系内機能連携

・同水系内迫川漁協栗原市築館さけますふ化場との連携を予定している。しかしながら、大嶺さけふ化場は7月中旬の大雨により施設に被害を受けており、9月現在復旧中である。このことから、築館さけますふ化場との連携は復旧状況を鑑みての実施となる。以下はシーズン前に復旧完了した場合の連携体制案である。

・迫川漁協の10月採卵群は直後卵で築館さけますふ化場に収容し発眼まで管理する。発眼卵検卵後に大嶺さけふ化場へ収容する。また、迫川漁協の11月上旬以降の採卵群は直後卵で大嶺さけふ化場に収容する。

・大嶺さけふ化場で管理・飼育した稚魚が0.6g程度に成長後、迫川漁協由来の稚魚は築館さけますふ化場に戻し、一定期間飼育後に一迫川に放流する。

## 4 生産計画

## (1) 親魚の採捕

	自河川分	共同採捕分	その他（ ）
採捕場所	鶉波，脇谷，神取，二股川		
採捕期間	9月下旬～11月下旬	月 旬～月 旬	月 旬～月 旬
採捕数量	♂23,000尾 ♀29,000尾	♂ 尾 ♀ 尾	♂ 尾 ♀ 尾

## (2) 畜養の方法

	自河川分	共同採捕分	その他（ ）
畜養場所	大嶺さけふ化場		
畜養期間	9月下旬～11月下旬 (1～4日間)	月 旬～月 旬	月 旬～月 旬
採捕数量	♂822尾 ♀8,000尾	♂ 尾 ♀ 尾	♂ 尾 ♀ 尾

## (3) 採卵の方法

	自河川分	共同採捕分	その他 ( )
採卵場所	大嶺さけふ化場		
採卵期間	9月下旬 ~ 11月下旬	月 旬 ~ 月 旬	月 旬 ~ 月 旬
採卵数量	13,000千粒	千粒	千粒

## (4) 種卵の管理

	自河川分	連携・集約分 (迫川種卵)	その他 ( )
管理場所	大嶺さけふ化場	大嶺さけふ化場	
管理期間	9月下旬 ~ 12月下旬	11月上旬~12月下旬	月 旬 ~ 月 旬
管理数量	9,000千粒	2,880千粒	千粒

## (5) 稚魚の飼育

	自河川	連携・集約分 (迫川種卵)	その他 ( )
飼育場所	大嶺さけふ化場	大嶺さけふ化場→築館さけますふ化場	
飼育期間	12月下旬 ~ 3月中旬	稚魚サイズ0.6g程度で築館に移出	月 旬 ~ 月 旬
飼育数量	7,000千尾	2,300千尾	千尾

## (6) 親魚・直後卵・発眼卵・稚魚の移出もしくは移入

	区分	数量	時期	団体名等	備考
移出	発眼卵	500千粒	12月上旬 ~ 12月中旬	大原川さけふ化場	未定
	稚魚	2,300千尾	未定	築館さけますふ化場	体重0.6g 程度
移入	直後卵	1,160千粒	11月上旬 ~ 12月上旬	築館さけますふ化場	
	発眼卵	1,720千粒	11月上旬 ~ 未定	築館さけますふ化場	

## (7) 採卵数及び放流尾数

採卵数合計	放流尾数合計 (自河川分)
13,000千粒	7,000千尾

## 5 その他特記事項

他道県との連携のもと、県外産種卵の移入を図り、種卵の確保に努める。  
その移入状況により、収容卵数や放流尾数は変更となる。

### 1 ふ化放流団体・ふ化場について

ふ化放流団体名	迫川漁業協同組合	代表者名	代表理事組合長 吉田 甚一
ふ化場名	栗原市築館さけますふ化場	所在地	栗原市築館

### 2 基礎情報

取水量	1.5トン/分	水源	河川水
種卵収容可能数量	4,500千粒	稚魚飼育可能数量	3,600千尾
親魚畜養池	有・ <b>(無)</b>	親魚畜養池収容可能量	尾
飼育期間(採卵～最終放流まで)	10月中旬～3月下旬		
飼育水温の状況(採卵～最終放流まで)	最低1.2℃～最高9℃		

### 3 生産体制

#### ①採捕・採卵, 管理・生産

- ・親魚の採捕は三方島堰の魚道において、組合員18名による5班編成とし日々交代採捕を行い、採卵・受精・直後卵搬送は業務員3名が交代で行うこととする。また、親魚の採捕数が著しく少ないと見込まれる場合は、業務員3名が採捕から直後卵搬入までの一連の業務をすべて行うこととする。
- ・ふ化場におけるふ化飼育及び放流は、業務員3名があたることとする。また、予め業務補助員2名を組合員から指名しておくこととする。
- ・余剰親魚等の処理は、運搬業者に委託し市場販売を行い組合運営費に充てることとする。

#### ②種卵確保の取り組み

- ・自河川における親魚採捕を継続して実施するほか、他道県産卵を移入し種卵確保に努める。

#### ③水系内機能連携

- ・ふ化放流の効率化をはかるため、同水系内北上川漁協大嶺さけふ化場と連携し飼育期間の短縮及び飼育経費削減等に努める。連携初年度にあたり両者協議の上、関係機関の指導により連携推進する。連携に際しては、大嶺さけふ化場の復旧状況を鑑みての実施となる。以下はシーズン前に復旧完了した場合の連携体制案である。
- ・迫川漁協の10月採卵群は直後卵で築館さけますふ化場に収容し発眼まで管理する。発眼卵検卵後に大嶺さけふ化場へ収容する。また、迫川漁協の11月上旬以降の採卵群は直後卵で大嶺さけふ化場に収容する。
- ・大嶺さけふ化場で管理・飼育した稚魚が0.6g程度に成長後、迫川漁協由来の稚魚は築館さけますふ化場に戻し、一定期間飼育後に一迫川に放流する。

### 4 生産計画

#### (1) 親魚の採捕

	自河川分	共同採捕分	その他( )
採捕場所	三方島堰の魚道		
採捕期間	10月上旬～12月上旬	月 旬 ～ 月 旬	月 旬 ～ 月 旬
採捕数量	♂1,700尾 ♀1,700尾	♂ 尾 ♀ 尾	♂ 尾 ♀ 尾

#### (2) 畜養の方法

	自河川分	共同採捕分	その他( )
畜養場所	河川自然蓄養		
畜養期間	10月上旬～12月上旬 (1～2日間)	月 旬 ～ 月 旬	月 旬 ～ 月 旬
採捕数量	♂300尾 ♀300尾	♂ 尾 ♀ 尾	♂ 尾 ♀ 尾





(3) 採卵の方法

	自河川分	共同採捕分	その他 ( )
採卵場所	河川 (現場)		
採卵期間	10月上旬 ~ 12月下旬	月 旬 ~ 月 旬	月 旬 ~ 月 旬
採卵数量	2,716千粒	千粒	千粒

(4) 種卵の管理

	自河川分	連携・集約分	その他 ( )
管理場所	江合川漁協さけふ化場		
管理期間	10月上旬 ~ 12月下旬	月 旬 ~ 月 旬	月 旬 ~ 月 旬
管理数量	2,716千粒	千粒	千粒

(5) 稚魚の飼育

	自河川	連携・集約分	その他 ( )
飼育場所	江合川漁協さけふ化場		
飼育期間	12月下旬 ~ 3月下旬	月 旬 ~ 月 旬	月 旬 ~ 月 旬
飼育数量	2,690千尾	千尾	千尾

(6) 親魚・直後卵・発眼卵・稚魚の移出もしくは移入

	区分	数量	時期	団体名等	備考
移出	親魚	尾	月 旬 ~ 月 旬		♂ 尾, ♀ 尾
	直後卵	粒	月 旬 ~ 月 旬		
	発眼卵	粒	月 旬 ~ 月 旬		
	稚魚	尾	月 旬 ~ 月 旬		体重 g 程度
移入	親魚	尾	月 旬 ~ 月 旬		♂ 尾, ♀ 尾
	直後卵	粒	月 旬 ~ 月 旬		
	発眼卵	粒	月 旬 ~ 月 旬		
	稚魚	尾	月 旬 ~ 月 旬		体重 g 程度

(7) 採卵数及び放流尾数

採卵数合計	放流尾数合計 (自河川分)
2,716千粒	2,690千尾

5 その他特記事項

他道県との連携のもと、県外産種卵の移入を図り、種卵の確保に努める。  
その移入状況により、収容卵数や放流尾数は変更となる。

### 1 ふ化放流団体・ふ化場について

ふ化放流団体名	北上追波漁業協同組合	代表者名	代表理事組合長 出羽 信成
ふ化場名	北上追波漁協合戦谷ふ化場	所在地	石巻市成田

### 2 基礎情報

取水量	3.9トン/分	水源	河川水
種卵収容可能数量	10,000千粒	稚魚飼育可能数量	5,000千尾
親魚畜養池	①・無	親魚畜養池収容可能量	100尾
飼育期間（採卵～最終放流まで）	10月上旬～3月下旬		
飼育水温の状況（採卵～最終放流まで）	最低5℃～最高12℃		

### 3 生産体制

#### ①採捕・採卵、管理・生産

・親魚の採捕は、新北上川，北上川水系追波川，真野川，合戦谷川で実施し，採卵は合戦谷ふ化場で実施する。9月下旬から12月下旬に採捕し，卵を北上追波漁協合戦谷ふ化場に収容する。収容後は合戦谷ふ化場において，放流まで管理・飼育を継続し，追波川へ放流する。

#### ②種卵確保の取り組み

・自河川における親魚採捕を継続して実施するほか，他道県産卵を移入し種卵確保に努める。

#### ③他ふ化場との機能連携

・来遊状況によっては，他のふ化場との連携による飼育経費の削減を検討する。

### 4 生産計画

#### (1) 親魚の採捕

	自河川分	共同採捕分	その他（ ）
採捕場所	新北上川，追波川，真野川，合戦谷川	<del>月 旬 ～ 月 旬</del>	<del>月 旬 ～ 月 旬</del>
採捕期間	9月下旬 ～ 12月下旬	<del>月 旬 ～ 月 旬</del>	<del>月 旬 ～ 月 旬</del>
採捕数量	♂10,000尾 ♀10,000尾	<del>♂ 尾 ♀ 尾</del>	<del>♂ 尾 ♀ 尾</del>

#### (2) 畜養の方法

	自河川分	共同採捕分	その他（ ）
畜養場所	合戦谷ふ化場（3～7日）	<del>月 旬 ～ 月 旬</del>	<del>月 旬 ～ 月 旬</del>
畜養期間	10月上旬 ～ 12月下旬	<del>月 旬 ～ 月 旬</del>	<del>月 旬 ～ 月 旬</del>
採捕数量	♂1,000尾 ♀2,500尾	<del>♂ 尾 ♀ 尾</del>	<del>♂ 尾 ♀ 尾</del>

(3) 採卵の方法

	自河川分	共同採捕分	その他 ( )
採卵場所	合戦谷ふ化場		
採卵期間	10月上旬 ~ 12月下旬	月 旬 ~ 月 旬	月 旬 ~ 月 旬
採卵数量	5,000千粒	千粒	千粒

(4) 種卵の管理

	自河川分	連携・集約分	その他 ( )
管理場所	合戦谷ふ化場		
管理期間	10月上旬 ~ 1月中旬	月 旬 ~ 月 旬	月 旬 ~ 月 旬
管理数量	5,000千粒	千粒	千粒

(5) 稚魚の飼育

	自河川	連携・集約分	その他 ( )
飼育場所	合戦谷ふ化場		
飼育期間	12月下旬 ~ 3月下旬	月 旬 ~ 月 旬	月 旬 ~ 月 旬
飼育数量	4,500千尾	千尾	千尾

(6) 親魚・直後卵・発眼卵・稚魚の移出もしくは移入

	区分	数量	時期	団体名等	備考
移出	親魚	尾	月 旬 ~ 月 旬		♂ 尾, ♀ 尾
	直後卵	粒	月 旬 ~ 月 旬		
	発眼卵	粒	月 旬 ~ 月 旬		
	稚魚	尾	月 旬 ~ 月 旬		体重 g 程度
移入	親魚	尾	月 旬 ~ 月 旬		♂ 尾, ♀ 尾
	直後卵	粒	月 旬 ~ 月 旬		
	発眼卵	粒	月 旬 ~ 月 旬		
	稚魚	尾	月 旬 ~ 月 旬		体重 g 程度

(7) 採卵数及び放流尾数

採卵数合計	放流尾数合計 (自河川分)
5,000千粒	4,500千尾

5 その他特記事項

他道県との連携のもと、県外産種卵の移入を図り、種卵の確保に努める。  
その移入状況により、収容卵数や放流尾数は変更となる。

### 1 ふ化放流団体・ふ化場について

ふ化放流団体名	宮城県漁業協同組合雄勝町雄勝湾支所	代表者名	支所運営委員長 末永陽市
ふ化場名	大原川さけ人工ふ化場(石巻市営)	所在地	石巻市雄勝町

### 2 基礎情報

取水量	3トン/分	水源	井戸
種卵収容可能数量	4,400千粒	稚魚飼育可能数量	3,500千尾
親魚畜養池	①・無	親魚畜養池収容可能量	200尾
飼育期間(採卵～最終放流まで)	10月下旬～3月中旬		
飼育水温の状況(採卵～最終放流まで)	最低6℃～最高12℃		

### 3 生産体制

#### ①採捕・採卵、管理・生産

・親魚の採捕は、大原川及び大原川河口沖の海面で実施し、採卵は大原川さけふ化場で実施する。10月下旬から12月上旬に採捕し、卵を大原川さけふ化場に収容する。収容後は大原川さけふ化場において、放流まで管理・飼育を継続し、大原川河口付近の海面へ放流する。

#### ②種卵確保の取り組み

・自河川及び海面における親魚採捕を継続して実施するほか、他ふ化場及び他道県産卵を移入し種卵確保に努める。

#### ③他ふ化場との機能連携

・来遊状況によっては、他のふ化場からの種卵受け入れによる機能連携を検討する。

### 4 生産計画

#### (1) 親魚の採捕

	自河川分	共同採捕分	その他(海面)
採捕場所	大原川	<del>雄勝町大原川河口沖</del>	雄勝町大原川河口沖
採捕期間	10月下旬～12月上旬	<del>10月下旬～12月上旬</del>	10月下旬～12月上旬
採捕数量	♂35尾 ♀35尾	<del>♂尾 ♀尾</del>	♂85尾 ♀85尾

#### (2) 畜養の方法

	自河川分	共同採捕分	その他( )
畜養場所	大原川さけふ化場	<del>雄勝町大原川河口沖</del>	
畜養期間	10月下旬～12月上旬	<del>10月下旬～12月上旬</del>	
採捕数量	♂35尾 ♀35尾	<del>♂尾 ♀尾</del>	

## 別冊 ふ化放流計画

## (3) 採卵の方法

	自河川分 (河川及び海面)	共同採捕分	その他 ( )
採卵場所	大原川さけ人工ふ化場		
採卵期間	10月下旬 ~ 12月上旬	月 旬 ~ 月 旬	月 旬 ~ 月 旬
採卵数量	270千粒	千粒	千粒

## (4) 種卵の管理

	自河川分	連携・集約分	その他 ( )
管理場所	大原川さけ人工ふ化場		
管理期間	10月下旬 ~ 12月下旬	月 旬 ~ 月 旬	月 旬 ~ 月 旬
管理数量	2,670千粒 (移入卵2,400千粒含む)	千粒	千粒

## (5) 稚魚の飼育

	自河川	連携・集約分	その他 ( )
飼育場所	大原川さけ人工ふ化場		
飼育期間	1月上旬 ~ 3月中旬	月 旬 ~ 月 旬	月 旬 ~ 月 旬
飼育数量	2,400千尾	千尾	千尾

## (6) 親魚・直後卵・発眼卵・稚魚の移出もしくは移入

	区分	数量	時期	団体名等	備考
移入	発眼卵	500千粒	12月上旬 ~ 12月中旬	大嶺さけふ化場	未定

## (7) 採卵数及び放流尾数

採卵数合計	放流尾数合計 (自河川分)
270千粒	2,400千尾

## 5 その他特記事項

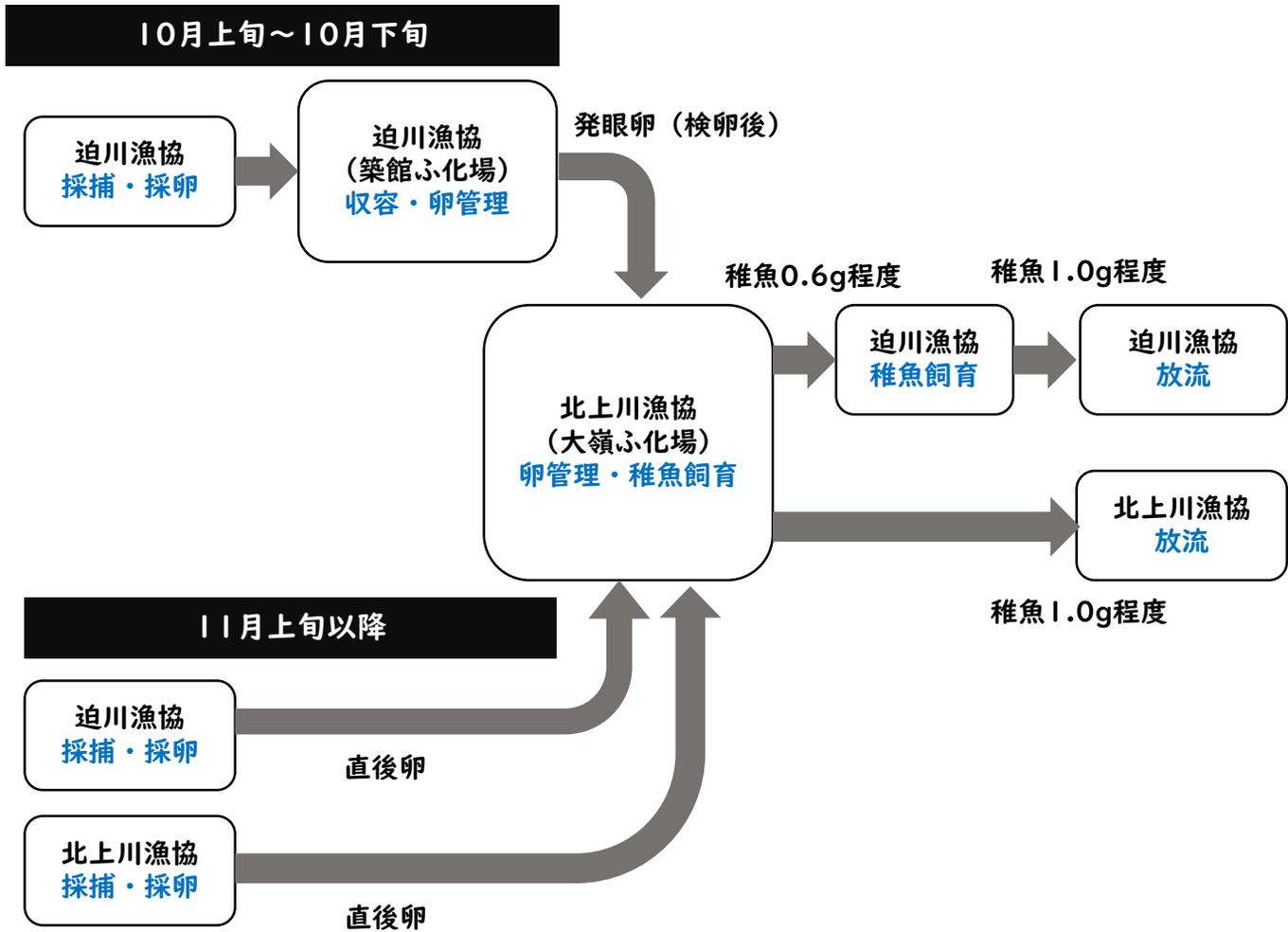
他道県との連携のもと、県外産種卵の移入を図り、種卵の確保に努める。  
その移入状況により、収容卵数や放流尾数は変更となる。





# 《参考》

## 北上川漁協と迫川漁協の水系内機能連携



※機能連携による生産体制については、状況によってより良い方法を検討していく

# 南部管内

## 【南部管内】

- (10) 石神さけふ化場
- (11) 沢渡ふ化場
- (12) 郡山ふ化場
- (13) 白石川漁協さけふ化場
- (14) 宮城県漁協亙理支所さけふ化場
- (15) 丸森さけふ化場

## 1 ふ化放流団体・ふ化場について

ふ化放流団体名	鳴瀬吉田川鮭増殖組合	代表者名	組合長 高橋正幸
ふ化場名	石神ふ化場	所在地	加美町小野田城下

## 2 基礎情報

取水量	1.248トン/分	水源	河川水・自然導水
種卵収容可能数量	5,200千粒	稚魚飼育可能数量	2,400千尾
親魚畜養池	有・ <b>(無)</b>	親魚畜養池収容可能量	尾
飼育期間（採卵～最終放流まで）	10月中旬～4月下旬		
飼育水温の状況（採卵～最終放流まで）	最低0℃～最高15℃		

## 3 生産体制

## 1 生産体制

## ①採捕・採卵、管理・生産

・親魚の採捕、採卵は、鳴瀬川水系鳴瀬川で実施する。9月下旬～11月下旬に採捕し、水系内機能連携により、直後卵を沢渡ふ化場に収容する。収容後は、沢渡ふ化場において、浮上稚魚期まで管理・飼育した後、沢渡ふ化場での継続管理、または石神ふ化場へ戻し、一定期間管理・飼育した後、鳴瀬川に放流する。

## ②種卵確保の取組み

・自河川における親魚採捕において、より効率的な採捕手法として、鳴瀬川桑折江堰における魚道採捕を実施する。

## ③水系内機能連携

・石神ふ化場においては、冬季の水温が低いため、10月下旬以降の採卵群の放流を県内の放流適期に実施するためには、水温が高く安定している同水系内（同組合）の沢渡ふ化場との連携が必要である。  
 ・このことから、両ふ化場の水温差を生かした移出入を行い、効率的な種卵管理、稚魚飼育を実施していく。  
 ・石神ふ化場における10月下旬以降の採卵群については、直後卵を沢渡ふ化場に集約し、浮上稚魚期まで管理・飼育した後、沢渡ふ化場での継続管理、または石神ふ化場へ戻し、一定期間管理・飼育した後、鳴瀬川に放流する。  
 ・時期の早い採卵群は、沢渡ふ化場で成長促進させた後、発眼卵（積算400℃）で石神ふ化場へ移出することで、沢渡ふ化場の飼育可能量の余力を増すことも検討する。

## 4 生産計画

## (1) 親魚の採捕

	自河川分	共同採捕分	その他（ ）
採捕場所	鳴瀬川桑折江堰		
採捕期間	9月下旬～12月上旬		
採捕数量	♂400尾 ♀350尾		

## (2) 畜養の方法

	自河川分	共同採捕分	その他（ ）
畜養場所	鳴瀬川桑折江堰		
畜養期間	9月下旬～12月上旬		
採捕数量	♂400尾 ♀350尾		

## (3) 採卵の方法

	自河川分	共同採捕分	その他 ( )
採卵場所	鳴瀬川桑折江堰		
採卵期間	10月中旬～11月下旬		
採卵数量	1,000千粒		

## (4) 種卵の管理

	自河川分	連携・集約分	その他 ( )
管理場所	沢渡ふ化場		
管理期間	10月中旬～2月上旬		
管理数量	1,000千粒		

## (5) 稚魚の飼育

	自河川分	連携・集約分	その他 ( )
飼育場所	石神ふ化場		
飼育期間	2月上旬～3月中旬		
飼育数量	900千尾		

## (6) 親魚・直後卵・発眼卵・稚魚の移出もしくは移入

	区分	数量	時期	団体名等	備考
移出	直後卵	1,000千粒	10月中旬～12月上旬	鳴瀬吉田川鮭増殖組合 沢渡ふ化場	
移入	稚魚	900千尾	2月上旬～2月下旬	鳴瀬吉田川鮭増殖組合 沢渡ふ化場	体重0.6g程度

## (7) 採卵数及び放流尾数

採卵数合計	放流尾数合計 (自河川分)
1,000千粒	900千尾

## 5 その他特記事項

- ・生産体制、生産計画の達成には、水系補助等による沢渡ふ化場の水量増加のための整備（3号池の再稼働等）、施設老朽化への対応が必要不可欠である。
- ・鳴瀬川桑折江堰魚道における密漁が近年問題となっているため、監視カメラの設置などを進める。
- ・他道県との連携のもと、県外産種卵の移入を図り、種卵の確保に努める。その移入状況により、収容卵数や放流尾数は変更となる。

## 1 ふ化放流団体・ふ化場について

ふ化放流団体名	鳴瀬吉田川鮭増殖組合	代表者名	組合長 高橋 正幸
ふ化場名	沢渡ふ化場	所在地	大和町吉田沢渡南

## 2 基礎情報

取水量	1.5トン/分	水源	湧水・自然導水
種卵収容可能数量	2,200千粒	稚魚飼育可能数量	1,200千尾
親魚畜養池	有・ <b>(無)</b>	親魚畜養池収容可能量	尾
飼育期間（採卵～最終放流まで）	10月中旬～2月中旬		
飼育水温の状況（採卵～最終放流まで）	最低11℃～最高12℃		

## 3 生産体制

## 1 生産体制

## ①採捕・採卵、管理・生産

・親魚の採捕、採卵は、鳴瀬川水系吉田川で実施する。10月中旬～11月下旬に採捕し、直後卵を沢渡ふ化場に収容する。収容後は、沢渡ふ化場において、放流まで管理・飼育を続け、吉田川へ放流する。

## ②種卵確保の取組み

・自河川における親魚採捕のほか、海面漁業者の協力のもと、連携を強化し、海産親魚の更なる活用を図る。海産親魚は、吉田川採捕場において畜養し、採卵に供する。  
・海産親魚から確保した種卵は、河川種卵と区別して管理し、海中放流を実施する。

## ③水系内機能連携

・同水系内（同組合）の石神ふ化場においては、冬季の水温が低いため、10月下旬以降の採卵群の放流を県内の放流適期に実施するためには、水温が高く安定している沢渡ふ化場との連携が必要である。  
・このことから、両ふ化場の水温差を生かした移出入を行い、効率的な種卵管理、稚魚飼育を実施していく。  
・石神ふ化場における10月下旬以降の採卵群については、直後卵を沢渡ふ化場に集約し、浮上稚魚期まで管理・飼育した後、沢渡ふ化場での継続管理、または石神ふ化場へ戻し、一定期間管理・飼育した後、鳴瀬川に放流する。  
・時期の早い採卵群は、沢渡ふ化場で成長促進させた後、発眼卵（積算400℃）で石神ふ化場へ移出することで、沢渡ふ化場の飼育可能量の余力を増すことも検討する。

## 4 生産計画

## (1) 親魚の採捕

	自河川分	共同採捕分	その他（ ）
採捕場所	吉田川採捕場		
採捕期間	10月中旬～11月下旬		
採捕数量	♂250尾 ♀100尾		

## (2) 畜養の方法

	自河川分	共同採捕分	その他（海産親魚）
畜養場所			吉田川採捕場
畜養期間			10月中旬～11月中旬
採捕数量			♂50尾 ♀250尾

## (3) 採卵の方法

	自河川分	共同採捕分	その他(海産親魚)
採卵場所	吉田川採捕場		吉田川採捕場
採卵期間	10月中旬～11月下旬		10月中旬～11月中旬
採卵数量	600千粒		400千粒

## (4) 種卵の管理

	自河川分	連携・集約分(鳴瀬川種卵)	その他(海産親魚)
管理場所	沢渡ふ化場	沢渡ふ化場	沢渡ふ化場
管理期間	10月中旬～12月下旬	10月中旬～2月上旬	10月中旬～1月上旬
管理数量	600千粒	1,000千粒	400千粒

## (5) 稚魚の飼育

	自河川分	連携・集約分(鳴瀬川種卵)	その他(海産親魚)
飼育場所	沢渡ふ化場	石神ふ化場	沢渡ふ化場
飼育期間	1月上旬～2月中旬	2月上旬～3月上旬	1月中旬～2月下旬
飼育数量	500千尾	900千尾	300千尾

## (6) 親魚・直後卵・発眼卵・稚魚の移出もしくは移入

	区分	数量	時期	団体名等	備考
移入	直後卵	1,000千粒	10月中旬～12月上旬	鳴瀬吉田川鮭増殖組合 石神ふ化場	
移出	稚魚	900千尾	2月上旬～2月下旬	鳴瀬吉田川鮭増殖組合 石神ふ化場	体重0.6g程度

## (7) 採卵数及び放流尾数

採卵数合計(海産卵除く)	放流尾数合計(自河川分)
600千粒	500千尾

## 5 その他特記事項

- ・生産体制、生産計画の達成には、水系補助等による沢渡ふ化場の水量増加のための整備(3号池の再稼働等)、施設老朽化への対応が必要不可欠である。
- ・他道県との連携のもと、県外産種卵の移入を図り、種卵の確保に努める。その移入状況により、収容卵数や放流尾数は変更となる。

# 別冊 ふ化放流計画

## 1 ふ化放流団体・ふ化場について

ふ化放流団体名	広瀬名取川漁業協同組合	代表者名	代表理事組合長 金子 賢司
ふ化場名	郡山ふ化場	所在地	仙台市太白区郡山

## 2 基礎情報

取水量	0.57トン/分	水源	地下水・動力揚水
種卵収容可能数量	4,000千粒	稚魚飼育可能数量	1,650千尾
親魚畜養池	有・ <b>(無)</b>	親魚畜養池収容可能量	尾
飼育期間 (採卵～最終放流まで)	10月中旬～2月上旬		
飼育水温の状況 (採卵～最終放流まで)	最低13℃～最高14℃		

## 3 生産体制

### 1 生産体制

#### ①採捕・採卵, 管理・生産

- ・親魚の採捕, 採卵は, 名取川水系名取川及び広瀬川で実施する。9月下旬～11月中旬に採捕し, 直後卵を郡山ふ化場に収容する。収容後は, 郡山ふ化場において, 放流まで管理・飼育を続け, 名取川及び広瀬川へ放流する。

#### ②種卵確保の取組み

- ・自河川における親魚採捕を継続して実施する。
- ・河川を管轄する国土交通省仙台河川国道事務所などに働きかけ, 親魚採捕に影響が生じない河川整備を要望する。

#### ③ふ化場運営の継続

- ・しばらくの間, 広瀬名取川水系協会の積立金を活用し, ふ化場運営費に充て, 事業運営を継続していく。

## 4 生産計画

### (1) 親魚の採捕

	自河川分	共同採捕分	その他 ( )
採捕場所	広瀬川・名取川採捕場		
採捕期間	9月下旬～11月中旬		
採捕数量	♂600尾 ♀300尾		

### (2) 畜養の方法

	自河川分	共同採捕分	その他 ( )
畜養場所			
畜養期間			
採捕数量			

## (3) 採卵の方法

	自河川分	共同採捕分	その他 ( )
採卵場所	名取川・広瀬川採捕場		
採卵期間	9月下旬～11月中旬		
採卵数量	400千粒		

## (4) 種卵の管理

	自河川分	連携・集約分	その他 ( )
管理場所	郡山ふ化場		
管理期間	10月中旬～12月下旬		
管理数量	400千粒		

## (5) 稚魚の飼育

	自河川分	連携・集約分 ( )	その他 ( )
飼育場所	郡山ふ化場		
飼育期間	12月下旬～2月中旬		
飼育数量	350千尾		

## (6) 親魚・直後卵・発眼卵・稚魚の移出もしくは移入

	区分	数量	時期	団体名等	備考
移出		千尾			
移入		千粒			

## (7) 採卵数及び放流尾数

採卵数合計	放流尾数合計 (自河川分)
400千粒	350千尾

## 5 その他特記事項

- ・採捕従事者の減少を抑えるため、ふ化場運営が赤字にならない方法で、事業を継続していく必要がある
- ・他道県との連携のもと、県外産種卵の移入を図り、種卵の確保に努める。その移入状況により、収容卵数や放流尾数は変更となる。

## 1 ふ化放流団体・ふ化場について

ふ化放流団体名	白石川漁業協同組合	代表者名	代表理事組合長 十二村 實
ふ化場名	白石川ふ化場	所在地	白石市不忘山

## 2 基礎情報

取水量	0.38トン/分	水源	湧水・自然導水
種卵収容可能数量	3,500千粒	稚魚飼育可能数量	450千尾
親魚畜養池	○・無	親魚畜養池収容可能量	尾
飼育期間（採卵～最終放流まで）	10月中旬～3月下旬		
飼育水温の状況（採卵～最終放流まで）	最低10℃～最高12℃		

## 3 生産体制

## 1 生産体制

## ①採捕・採卵，管理・生産

・親魚の採捕，採卵は，阿武隈川水系白石川で実施する。10月上旬～11月下旬に採捕し，直後卵を白石川ふ化場に収容する。収容後は，白石川ふ化場において，放流まで管理・飼育を続け，白石川へ放流する。

## ②種卵確保の取組み

・阿武隈川水系における親魚採捕において，より効率的な採捕手法として，阿武隈川阿武隈大堰（右岸）における魚道採捕を水系事業として水系内3ふ化場協力のもと実施する。  
 ・阿武隈大堰で採捕した親魚は，水系内機能連携により，白石川ふ化場へ輸送し，採卵に供し，白石川ふ化場へ収容する。

## ③水系内機能連携

・同水系内亘理ふ化場及び丸森ふ化場においては，冬季の水温が低いため，10月下旬以降の採卵群の放流を県内の放流適期に実施するためには，水温が高く安定している白石川ふ化場との連携が必要である。  
 ・水系内3ふ化場の水温差を生かした移出入を行い，白石川ふ化場へ種卵を集約することで，効率的な種卵管理，稚魚飼育を実施していく。  
 ・阿武隈川下流採捕場で採捕した親魚は白石川ふ化場へ輸送し，採卵に供し，白石川ふ化場へ収容する。  
 丸森採捕場で採卵した直後卵は，白石川ふ化場へ集約する。  
 ・集約卵数が白石川ふ化場の収容能力（稚魚500千尾）を超える場合には，時期の早い採卵群は，白石川ふ化場で成長促進させた後，発眼卵（積算400℃）で丸森ふ化場ほかへ移出することで，白石川ふ化場の飼育可能量の余力を増すことも検討する。

## 4 生産計画

## (1) 親魚の採捕

	自河川分	共同採捕分	その他（）
採捕場所	白石川採捕場	阿武隈川阿武隈大堰	
採捕期間	10月上旬～11月下旬	10月下旬	
採捕数量	♂450尾 ♀500尾	♂350尾 ♀250尾	

## (2) 畜養の方法

	自河川分	共同採捕分	その他（亘理ふ化場・阿武隈川下流採捕場）
畜養場所	白石川ふ化場	阿武隈川阿武隈大堰	白石川ふ化場
畜養期間	10月下旬～11月上旬	10月下旬	10月中旬～11月上旬
採捕数量	♂450尾 ♀500尾	♂350尾 ♀250尾	♂100尾 ♀50尾

## （3）採卵の方法

	自河川分	共同採捕分（阿武隈大堰）	その他（丸森ふ化場）	その他（亶理ふ化場）
採卵場所	白石川ふ化場	白石川ふ化場	丸森採捕場	白石川ふ化場
採卵期間	10月下旬～11月上旬	10月下旬～11月上旬	10月中旬～11月上旬	
採卵数量	400千粒	500千粒	100千粒（合算）	

## （4）種卵の管理

	自河川分	連携・集約分（阿武隈大堰種卵）	その他（丸森ふ化場種卵）	その他（亶理ふ化場種卵）
管理場所	白石川ふ化場	白石川ふ化場	白石川ふ化場	
管理期間	10月下旬～12月下旬	10月下旬～12月下旬	10月中旬～12月下旬	
管理数量	400千粒	500千粒	100千粒（合算）	

## （5）稚魚の飼育

	自河川分	連携・集約分（阿武隈大堰種卵）	その他（丸森ふ化場種卵）	その他（亶理ふ化場種卵）
飼育場所	白石川ふ化場	白石川ふ化場	丸森ふ化場	
飼育期間	1月中旬～2月中旬	1月中旬～2月中旬	2月下旬～3月下旬	
飼育数量	500千尾		300千尾	

## （6）親魚・直後卵・発眼卵・稚魚の移出もしくは移入

	区分	数量	時期	団体名等	備考
移入	親魚	500千粒分	10月下旬～11月上旬	阿武隈川水系協会	阿武隈大堰
移入	親魚	100千粒分	10月中旬～11月上旬	JFみやぎ仙南（亶理）支所 亶理ふ化場	
移入	直後卵		10月中旬～11月上旬	宮城県阿武隈川漁業協同組合 丸森ふ化場	
移出	発眼卵	300千粒	12月中旬～12月下旬	宮城県阿武隈川漁業協同組合 丸森ふ化場	

## （7）採卵数及び放流尾数

採卵数合計	放流尾数合計（自河川分）
400千粒	500千尾

## 5 その他特記事項

- ・生産体制、生産計画の達成には、水系補助等による白石川ふ化場の整備、施設老朽化への対応が必要不可欠である。
- ・水系協会事務局主導により、3ふ化場合意のもと、機能連携の実施を図っていく。
- ・他道県との連携のもと、県外産種卵の移入を図り、種卵の確保に努める。その移入状況により、収容卵数や放流尾数は変更となる。

## 別冊 ふ化放流計画

## 1 ふ化放流団体・ふ化場について

ふ化放流団体名	宮城県漁業協同組合 仙南（亶理）支所	代表者名	支所運営委員長 菊地 幹彦
ふ化場名	亶理支所さけふ化場	所在地	角田市鳩原

## 2 基礎情報

取水量	2トン/分	水源	河川水・動力揚水
種卵収容可能数量	2,375千粒	稚魚飼育可能数量	3,523千尾
親魚畜養池	有・無	親魚畜養池収容可能量	尾
飼育期間（採卵～最終放流まで）	10月下旬～4月中旬		
飼育水温の状況（採卵～最終放流まで）	最低1℃～最高13℃		

## 3 生産体制

## 1 生産体制

## ①採捕・採卵，管理・生産

- 親魚の採捕，採卵は，阿武隈川水系阿武隈川（下流）で実施する。10月中旬～11月下旬に採捕し，水系内機能連携により，親魚を白石川ふ化場へ輸送し，採卵に供し，白石川ふ化場へ収容する。収容後は，白石川ふ化場において，放流まで管理・飼育を続け，阿武隈川水系内河川へ放流する。

## ②種卵確保の取組み

- 阿武隈川水系における親魚採捕において，より効率的な採捕手法として，阿武隈川阿武隈大堰（右岸）における魚道採捕を水系事業として水系内3ふ化場協力のもと実施する。
- 阿武隈大堰で採捕した親魚は，水系内機能連携により，白石川ふ化場へ輸送し，採卵に供し，白石川ふ化場へ収容する。

## ③水系内機能連携

- 阿武隈川水系内亶理ふ化場及び丸森ふ化場においては，冬季の水温が低いため，10月下旬以降の採卵群の放流を県内の放流適期に実施するためには，水温が高く安定している白石川ふ化場との連携が必要である。
- 水系内3ふ化場の水温差を生かした移出入を行い，白石川ふ化場へ種卵を集約することで，効率的な種卵管理，稚魚飼育を実施していく。

## 4 生産計画

## (1) 親魚の採捕

	自河川分	共同採捕分	その他（）
採捕場所	阿武隈川下流採捕場	阿武隈川阿武隈大堰	
採捕期間	10月中旬～11月下旬	10月下旬	
採捕数量	未定	♂350尾 ♀250尾	

## (2) 畜養の方法

	自河川分	共同採捕分	その他（）
畜養場所	水系内調整	阿武隈川阿武隈大堰ほか	
畜養期間	10月中旬～11月下旬	10月下旬	
採捕数量	未定	♂350尾 ♀250尾	

（3）採卵の方法

	自河川分	共同採捕分（阿武隈大堰）	その他（）
採卵場所	白石川ふ化場	白石川ふ化場	
採卵期間	10月中旬～11月上旬	10月下旬～11月上旬	
採卵数量	100千粒 （丸森ふ化場合算）	500千粒	

（4）種卵の管理

	自河川分	連携・集約分 （阿武隈大堰種卵）	その他（）
管理場所	白石川ふ化場	白石川ふ化場	
管理期間	10月中旬～12月下旬	10月下旬～12月下旬	
管理数量	100千粒 （丸森ふ化場合算）	500千粒	

（5）稚魚の飼育

	自河川分	連携・集約分 （阿武隈大堰種卵）	その他（）
飼育場所	白石川ふ化場	白石川ふ化場	
飼育期間	1月中旬～2月中旬	1月中旬～2月中旬	
飼育数量	100千粒 （丸森ふ化場合算）	500千尾	

（6）親魚・直後卵・発眼卵・稚魚の移出もしくは移入

	区分	数量	時期	団体名等	備考
移出	親魚	400尾～	10月中旬～11月上旬	白石川漁業協同組合 白石川ふ化場	
移入		千粒			

（7）採卵数及び放流尾数

採卵数合計	放流尾数合計（自河川分）
—千粒	—千尾

5 その他特記事項

- ・生産体制，生産計画の達成には，水系補助等による白石川ふ化場の整備，施設老朽化への対応が必要不可欠である。
- ・水系協会事務局主導により，3ふ化場合意のもと，機能連携の実施を図っていく。
- ・他道県との連携のもと，県外産種卵の移入を図り，種卵の確保に努める。その移入状況により，収容卵数や放流尾数は変更となる。

## 1 ふ化放流団体・ふ化場について

ふ化放流団体名	宮城県阿武隈川漁業協同組合	代表者名	代表理事組合長 手塚 政宏
ふ化場名	丸森ふ化場	所在地	丸森町上滝さくらの広場

## 2 基礎情報

取水量	0.36トン/分	水源	河川水
種卵収容可能数量	2,400千粒	稚魚飼育可能数量	173千尾
親魚畜養池	有・ <b>無</b>	親魚畜養池収容可能量	尾
飼育期間（採卵～最終放流まで）	10月中旬～4月中旬		
飼育水温の状況（採卵～最終放流まで）	最低2℃～最高13℃		

## 3 生産体制

## 1 生産体制

## ①採捕・採卵，管理・生産

・親魚の採捕，採卵は，阿武隈川水系阿武隈川（上流）で実施する。10月中旬～11月中旬に採捕し，水系内機能連携により，直後卵を白石川ふ化場に収容する。白石川ふ化場への集約卵数が，収容能力（稚魚500千尾）を超える場合には，時期の早い採卵群は，白石川ふ化場で成長促進させた後，発眼卵（積算400℃）で丸森ふ化場ほかへ移出し，一定期間管理・飼育した後，阿武隈川に放流する。

## ②種卵確保の取組み

・阿武隈川水系における親魚採捕において，より効率的な採捕手法として，阿武隈川阿武隈大堰（右岸）における魚道採捕を水系事業として水系内3ふ化場協力のもと実施する。  
・阿武隈大堰で採捕した親魚は，白石川ふ化場へ輸送し，採卵に供し，白石川ふ化場へ収容する。

## ③水系内機能連携

・阿武隈川水系内亘理ふ化場及び丸森ふ化場においては，冬季の水温が低いため，10月下旬以降の採卵群の放流を県内の放流適期に実施するためには，水温が高く安定している白石川ふ化場との連携が必要である。  
・水系内3ふ化場の水温差を生かした移出入を行い，白石川ふ化場へ種卵を集約することで，効率的な種卵管理，稚魚飼育を実施していく。

## 4 生産計画

## (1) 親魚の採捕

	自河川分	共同採捕分	その他（）
採捕場所	丸森採捕場	阿武隈川阿武隈大堰	
採捕期間	10月中旬～11月中旬	10月下旬	
採捕数量	♂100尾 ♀50尾	♂350尾 ♀250尾	

## (2) 畜養の方法

	自河川分	共同採捕分	その他（）
畜養場所		阿武隈川阿武隈大堰	
畜養期間		10月下旬	
採捕数量		♂350尾 ♀250尾	

## (3) 採卵の方法

	自河川分	共同採捕分（阿武隈大堰）	その他（）
採卵場所	丸森採捕場	白石川ふ化場	
採卵期間	10月中旬～11月上旬	10月下旬～11月上旬	
採卵数量	100千粒 （亘理ふ化場合算）	500千粒	

## (4) 種卵の管理

	自河川分	連携・集約分 （阿武隈大堰種卵）	その他（）
管理場所	白石川ふ化場	白石川ふ化場	
管理期間	10月中旬～12月下旬	10月下旬～12月下旬	
管理数量	100千粒 （亘理ふ化場合算）	500千粒	

## (5) 稚魚の飼育

	自河川分	連携・集約分 （阿武隈大堰種卵）	その他（）
飼育場所	丸森ふ化場	白石川ふ化場	
飼育期間	2月下旬～3月下旬	1月中旬～2月中旬	
飼育数量	300千尾	500千尾	

## (6) 親魚・直後卵・発眼卵・稚魚の移出もしくは移入

	区分	数量	時期	団体名等	備考
移出	直後卵	100千粒 （亘理ふ化場合算）	10月中旬～11月上旬	白石川漁業協同組合 白石川ふ化場	
移入	発眼卵	300千粒	12月中旬～12月下旬	白石川漁業協同組合 白石川ふ化場	

## (7) 採卵数及び放流尾数

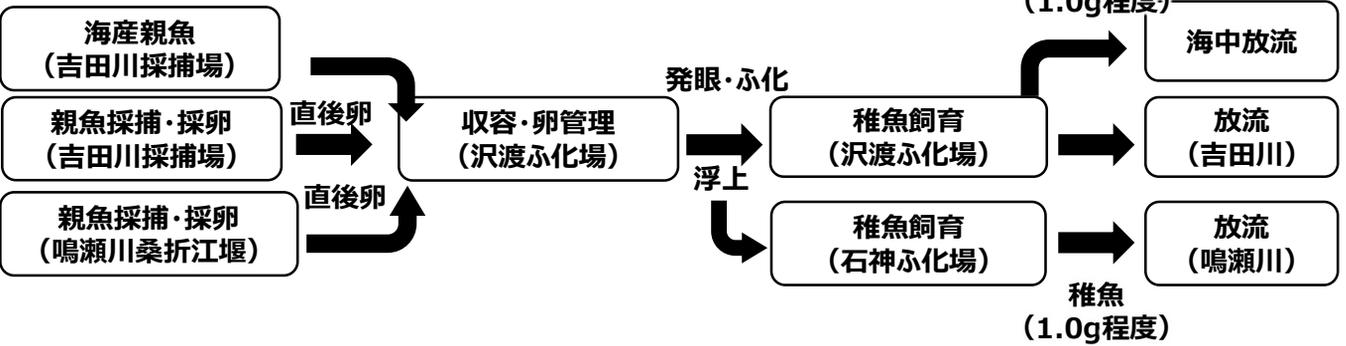
採卵数合計	放流尾数合計（自河川分）
100千粒	300千尾

## 5 その他特記事項

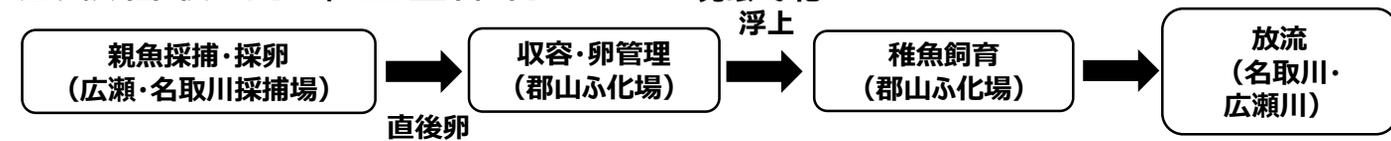
- ・生産体制、生産計画の達成には、水系補助等による白石川ふ化場の整備、施設老朽化への対応が必要不可欠である。
- ・水系協会事務局主導により、3ふ化場合意のもと、機能連携の実施を図っていく。
- ・他道県との連携のもと、県外産種卵の移入を図り、種卵の確保に努める。その移入状況により、収容卵数や放流尾数は変更となる。

# 《参考》

## 鳴瀬川水系生産体制・機能連携



## 広瀬名取川水系生産体制



## 阿武隈川水系生産体制・機能連携

